

群 教 七	G11 - 03
	令6.287集
	学級活動

目標に向かって自分の個性を生かし主体的に行動 できる児童の育成

—自分たちの強みや未来像を共有し、

学級の課題を自分事として考える活動を通して—

特別研修員 八高 暁仁

I 研究テーマ設定の理由

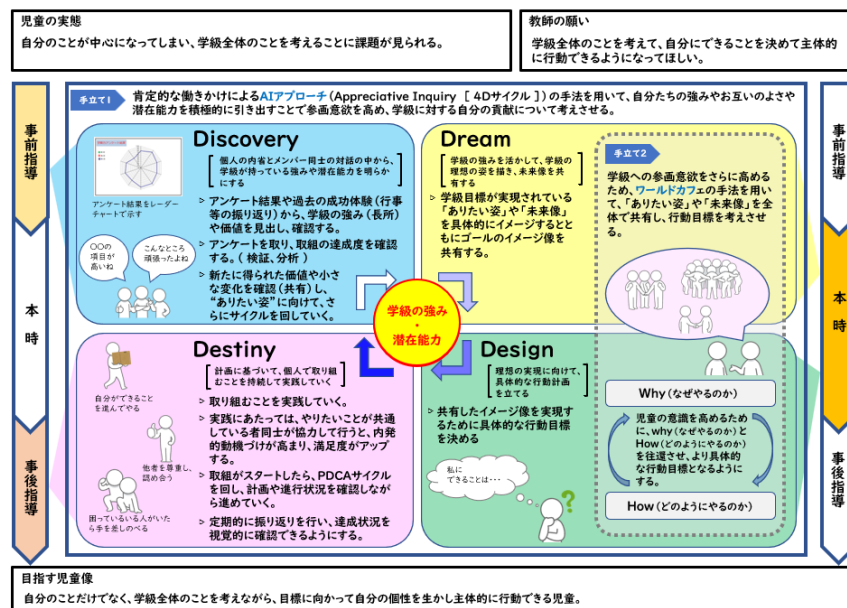
小学校学習指導要領解説（平成29年告示）特別活動編の中の学級活動（3）では、育成する資質・能力が三つ挙げられている。その中の一つに「現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う」と示されている。また、群馬県教育委員会が作成したエージェンシーを発揮するための学びを推進するリーフレットには「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」と記載されている。

研究協力校（以下、協力校）の第5学年の児童は、年度当初、給食の準備や移動教室の際に、自分のことを優先させ、すぐに取り掛かることができないなど学級全体のことを考えて行動することに課題が見られた。しかし、宿泊学習や運動会などの行事では、仲間と協力して目標やノルマを達成し自分たちなりに充実感を得ることができた。また、「個性輝く優しい5-1」という学級目標を達成するために、「分からない人がいたら教えたり、苦手な子にアドバイスをしたりする」ことを学級活動で決めて、児童一人一人が、自分ができることを実践した結果、算数の授業の中で、教え合う姿が見られるなど、徐々にではあるが周りのことを考えて行動できる場面が増えてきた。

これまでの児童の様子から、アンケートで評価の低い項目を改善していくという消極的な感情から話合いを行うよりも、自分たちの強みに目を向けるという積極的な感情から出発した方が、目的に向かって意欲的に取り組めるであろうと考えた。そこでA Iアプローチ（Appreciative Inquiry [4Dサイクル]）やワールドカフェの手法を用い、学級全体で自分たちの強みや未来像（ありたい姿）を共有し、集団（社会）の中で自分が取べき行動を考え実行することで、目指す児童の育成に迫ることができると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

児童が自分たちの強みや未来像を共有し、自分がすべき行動目標を考え実行するために次の手立てを考えた。

手立て1 学級への参画意欲を高めるため、肯定的な働きかけによるA Iアプローチの手法を用いる。自分たちの強みや互いのよさや潜在能力、未来像を積極的に引き出し、共有することで、学級の中で自分が貢献できること・貢献したいことについて考えられるようにする。

① Discovery [分析＝自分たちの強みや価値を発見する]

行事ごとにアンケートを実施する。その際、結果をレーダーチャートに表し、学級の強みや課題を児童が捉えられるにする。アンケート項目は児童の声を生かしつつ作成する。アンケート項目に対する評価基準はあらかじめ共有し、捉え方に個人差が出ないように留意する。

手立て2 学級への参画意欲をより高め、学級の中で自分が貢献できること、貢献したいことを考えさせるために、A Iアプローチの②Dreamと③Designの段階でワールドカフェの手法を用いる。各ラウンドで成功体験や未来像を共有する。取り組むこと（＝議題）は、児童から出た意見などを取り上げる。ありたい姿や未来像を共有した後で、学級の中で自分が貢献できること・貢献したいことを考える時間（ハーベスティング）を設定する。

② Dream [ありたい姿や未来像を共有する]

学級の強みを生かして、理想の姿を描き、学級の未来像を共有する。話合い（ラウンド）を重ねる中で「未来像」や「ありたい姿」についても想いを共有できるようにラウンドテーマ（話合いのテーマ）を設定する。

③ Design [具体的な行動計画を立てる]

理想の実現に向けて、具体的な行動計画を立てる。個人で考える行動目標は、できるだけ具体的になるよう、ワークシートに5W1Hの観点で記入させる。

④ Destiny [計画に基づいて、実践する]

個人で考えた行動目標を実践する。行動目標が書かれたワークシートは、教室もしくは廊下に掲示し、帰りの会などで定期的に振り返り、達成状況を確認できるようにする。達成状況を視覚的に把握できるよう、掲示物等を作成し、意欲を高められるようにする。途中で取組状況を確認したり、必要に応じて計画に修正を加えたりしながらサイクルを進める。振り返る過程で自分たちの価値を新たに見いだしたり、小さな変化を確認したりしながら新たなサイクルにつなげていく。

Ⅲ 実践例

1 題材名 「北小オリンピックをしよう」（特別活動・第5学年・2学期）

2 本題材について

本議題は、5年1組の学級目標「個性輝く優しい5－1」を達成するために、どうすればよいかを1学期に話し合った際に、協力校の児童から出た意見である。協力校の児童は、普段の授業に加え、宿泊学習や運動会などの行事を通して成長が見られた。そのため、ワールドカフェの手法を用い、運動会の成功体験を想起させ、運動会が成功した理由、北小オリンピックを成功させるための要因、クラスの未来像を考え、その後、北小オリンピックを成功させるために、個人で貢献できること・貢献したいことを決め、実践していく。実践を通して主体性や責任感に加え自分のことだけでなく、友達や学級全体のことも考えて、学級更には学校、地域といった自分が属している環境をよりよくしていこうという気持ちを持ち、自分たちで考えて行動できるようにしていきたい。さらに、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方の実現や「今の自分」に価値や意味を見いだすことにつながると考え、本題材を設定した。

以上のような考えから、本題材（単元）では次のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1)働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。（知識及び技能） (2)自己の生活や学習について考え、自己への理解を深め、よりよく生きる課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
----	--

		(3) 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
評価規準		(1) 希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。 (2) 希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについてよりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。 (3) 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。
過程	時間	主な学習活動
事前の活動	第1時	・運動会のアンケート結果を基に作成したレーダーチャートからクラスの強みを見付ける。 ・レーダーチャートの結果を児童の学習用端末に送り、個人でも確認できるようにする。 ・ワールドカフェの話し合いの進め方について確認する。 ・「北小オリンピック」を行うことを伝える。
本時の活動	第2時	・運動会が成功した理由や北小オリンピックを成功させるために大切なことを話し合う。 ・自分で考えた行動目標を通して、「どのように成長したいのか」を考える。 ・学習用端末に、個人で取り組むことを入力し、考えを共有する。
事後の活動	第3時	・個人で取り組むことを確認し、実際に実践する。やりたいことが共通している場合はグループを組んで協力して取り組む。

3 授業の実際

(1) 事前の活動について

事前の活動では、手立て1であるA Iアプローチの①の段階にあたり、運動会についてのアンケートを実施した。アンケート項目は、「運動会を成功させるために必要なこと」「運動会を成功させるために自分ができること」を児童が考えられるようにし、それを踏まえたアンケート項目にした。アンケートの結果をレーダーチャートで児童に提示し、学級の強みや課題を捉えられるようにした(図1)。

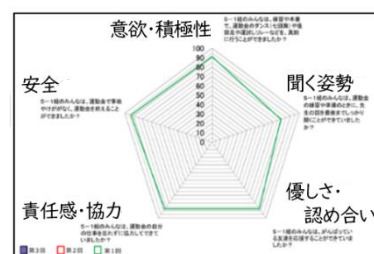


図1 運動会後に実施したアンケート結果

(2) 本時の活動について

本時の活動は、手立て1のA Iアプローチの②と③の段階であり、より効果的に行うため、手立て2であるワールドカフェの手法を用いて話し合い活動を行い、その後で個人の行動目標を設定した。

話し合いは3ラウンド(3段階)で行い、1ラウンド目では、運動会のアンケート結果を基に「運動会が成功した理由」を話し合った。付箋に自分の意見を書き、トーキングオブジェクトを持った人が話をし、付箋を模造紙に貼っていく(図2)。このラウンドでは、「熱心に練習したから」や「全力でやったから、がんばったから」など意欲や積極性に関する意見が多く出ていた。



図2 ワールドカフェで出た意見

2ラウンド目を始める前に、テーブルホスト(以下、ホスト)1名が残り、残りの児童は他のテーブルへ移動した。ホストは、移動してきた児童に、直前に自分のテーブルで出た意見を紹介した。その後、2ラウンド目では、「北小オリンピックを成功させるために大切なこと」について話し合った。このラウンドでは、「協力する」や「安全に行動する」「しっかり計画を立てる」など、協力や安全、計画に関する意見が多く出ていた。

3ラウンド目では、全員が元のテーブルに戻り、児童が「未来像」や「ありたい姿」について具体的にイメージできるように「北小オリンピックが成功したら、この学級はどんな学級になると思いますか」をテーマにした。このラウンドでは、「個性輝く優しい学級」や「協力できる」など学級目標や協力に関する意見が多く出た。

ワールドカフェでは話し合いがしやすいように、ラウンドごとに自分の考えを付箋に書く時間と話し合う時間とに分けた。また、ラウンドごとに付箋の色を変えることで、どのラウンドに出た意見が視覚的に分かりやすくした。ラウンドテーマについては、「自分たちの強み」から「未来像」につながるように設定した。

個人で取り組むことを決める場面では、各ラウンドの話し合いを経て、北小オリンピックを成功させるために個人で貢献できること・貢献したいことを考えた。個人の行動目標を立てる際は、北小オリンピックでやってみたいこと、北小オリンピックを通してどのように成長したいのか自分のゴールも記入できるようにし、個人の行動目標については更に具体的に書けるようにした。

(3) 事後の活動について

事後の活動では、個々で取り組むことについて再考した。その際「どのようにやる」「どうしてやる」についても具体的に書くように促したところ、児童は前時に書いた付箋を参考に手段と目的を意識しながら書いていた。その後、競技の種目やルールを考える、ポスターやメダル作成など、やりたいことが共通している者同士で話し合いを行った。話し合いを重ねる中で、計画書を作成し、自分たちが取り組みたいことを実践していった。実践にあたっては、本番に向けて、プレ大会を行うなど試行錯誤を繰り返し、必要に応じて計画に修正を加えながら準備を進めていった（北小オリンピックの本番は、3学期に実施予定）。児童の意欲を高め、継続させるために、達成状況に応じて虹の長さが伸びていく掲示物を作成し（図3）、定期的に取り組むを振り返ることにした。



図3 達成状況を確認する掲示物

(4) 考察

手立て1について、自分たちの「強み」や「未来像」など前向きな面を引き出し、共有したことで、児童は意欲的に話し合いやその後の活動に参加することができた。北小オリンピック開催に向けては、授業中だけでなく休み時間も互いに声を掛け合い、協力して種目やルールを考えたり、景品のメダルやポスターを作成したりしていた。考えた種目を絞っていく段階では、児童から全校生徒にアンケートを取りたいと申し出があるなど、児童から自分たちがやりたいことを発案してきたり、進んで行動したりする姿が見られるようになった。また、ある程度の段階で取組の振り返りを行ったことで、児童は、新たな強みや価値に気付くことができた。その結果、「もっとよくしよう」とか「もっとよくなりたい」という思いを引き出すことにつながったと思われる。

手立て2について、自由な対話を目的としたワールドカフェの手法を取り入れたことで、児童からたくさんの考えや思いを引き出すことができた。児童の実態に合わせ、事前に付箋に自分の考えを書く時間を確保し、付箋を貼りながら意見を言う形を取ったことも、普段あまり意見を言えない児童や授業に意欲的でない児童が、自分の考えをしっかりと持ち、自信をもって表明することにつながったと考える。

IV 研究のまとめ

1 成果

学級の中での自分の役割や努力目標を、一人一人が自分で考えて決めることができた。また、自ら立てた目標を達成しようと行動することで、学級の活動に主体的に参加するとともに、学級の中で自分の役割を果たそうとする姿がたくさん見られるようになった。さらに、活動を振り返る中で、児童自身が自己のよさや成長、変容を感じ、次の活動への意欲をもつことができた。

2 課題

行事などのアンケートを基に強みや価値観を共有する場合、児童の捉えは様々であるため、事前に評価基準を全体で共有しておく必要がある。また、アンケート結果に対して、教師としては「高い評価」という捉えであっても、児童は教師の認識とは逆の捉えをすることもあった。それは、児童が「自分たちはもっとできる」と意識が変化したからだと思われる。そのあたりの捉えの差を丁寧に埋めていくと、児童の意欲を更に引き出し、自己有用感や自己効力感も更に高めていけると本実践を通して感じた。